

## 別紙 1

### 募集する研究テーマ例

広域サイクル拠点整備協議会では、複数の企業間で協議の上、独自の研究会を立ち上げることができる。研究会にて取り上げる中核事業は、循環社会構築のための事業であれば、特に制限はない。以下に、例示として当面の研究会案を提示するが、これにこだわるものではない。

#### 平成14年度からの継続テーマ

##### 複合廃棄物リサイクル研究会

複合廃棄物のうち、種々の分野の処理困難な廃棄物（有機汚泥、スラッジ、医療系廃棄物等）に重点を置き、それぞれの廃棄物に対して既存のインフラを活用したリサイクル方法を研究する。更にその中で事業化の可能性について検討する。

##### 建設廃棄物リサイクル研究会

建設工事および解体工事の現場から排出される木材、建設汚泥、発生土等の建設廃棄物について建設リサイクル法の施行を視野に入れた新しい建設リサイクルシステムの構築とその事業化の可能性について検討する。

##### 適正処理リサイクル研究会

可燃物のみでなく不燃物の処理も視野に入れ、焼却灰、ばいじん、最終処分場埋立ごみ等の適正処理及びスラグ化されたものの有効利用方法について研究する。その中で事業化の可能性について検討する。

#### 平成15年度からの新規テーマ例

##### 食品廃棄物リサイクル研究会

食品廃棄物について、これまで検討してきた方法と別の視点でバイオガスの有効利用（燃料電池等）等を含めた新しい食品リサイクルシステムの構築とその事業化の可能性について検討する。

##### 繊維廃棄物リサイクル研究会

一般廃棄物の中で衣料品等繊維製品の廃棄量は年間約160万トン規模であるにもかかわらず、回収後の再生用途開発が遅れておりリサイクル義務づけがなされていない。ここでは繊維廃棄物のリサイクル方法を研究し、その事業化の可能性について検討する。

##### 木質廃棄物リサイクル研究会

剪定枝、未利用木材（製材端材、間伐未利用材）は年間570万トンの排出量があり、これら木質廃棄物のリサイクル方法としてのバイオエタノール化等の有効活用方法の研究を行い、その事業化の可能性について検討する。

##### 紙廃棄物リサイクル研究会

紙の廃棄物は年間約2,760万トン程度と想定されるが古紙利用率は60%以下である。特に一般廃棄物として排出される古紙の回収率が低いいため回収率の向上策及び新たな古紙利用方法の研究を行い、その事業化の可能性について検討する。

##### その他必要なリサイクル事業の研究会

前記七事業以外に必要な分野・品目についてのリサイクル事業を取り上げ、分野・品目毎の研究会で、リサイクルシステムの構築とその事業化の可能性について検討する。

なお、今回のシステム構築においては、物と情報を含めた物流システムの良否が事業化可能性の要件と考えられ、物流システムについては各研究会の事業毎に検討することが必要である。

